



### 3. 推薦区分 \*

推薦区分を以下から選択してください。

- 自薦
- 他薦（推薦者）※専任教員
- 他薦（被推薦者）

### 自薦/他薦（被推薦者）

エントリー期間：2026年1月5日(月)00:00 ～ 2026年3月31日（火）23:59

### 4. 授業科目名 \*

申請する授業科目名（※2025年度開講）を入力してください。

ジェンダーとキャリア形成

### 5. シラバス（URL） \*

申請科目のシラバスURLをご入力ください。

<https://portal.tku.ac.jp/syllabus/public/pubShowSyllabus.php?sno=179679&rlcd=11525-003&mt=0&year=2025>

## 6. 該当する達成基準 \*

申請科目が該当すると考える達成基準を以下から選択してください。

※複数回答可

- 全学や学部の3ポリシー実現に寄与する取り組み
- 授業実践における課題への取り組み
- 学修者主体の教育への取り組み
- 本学の教育の質向上に資する取り組みであり、他の授業の参考となる取り組み

## 7. 教育実践の目的・目標 \*

申請科目を通じて目指す教育目標をご入力ください。

社会でのびのびと活躍する人財を育む

## 8. 取り組み内容 \*

申請科目における、独自の工夫や先進的な取り組みの具体的な内容をご入力ください。

- ①「ご近所対話」：ジェンダーのみならず様々なダイバーシティの観点からキャリア形成を考えるため、多様な人たちと対話することを重視。履修登録者が100名を超えるが、学生同士の対話の時間を毎回取り入れている。おしゃべりでも議論でもなく、対話をすることによる気づきを大切にしている。
- ②「フィードバック」：授業の前半は「前週の続き」と位置づけ、前週のリアクションペーパー（コメント）から数例を紹介したりさらなる解説をすることで、他者コメントから新たな学びを得たり、学習の深化・定着の時間にしている。
- ③「ゲスト講義」：私自身が教員であると同時に一人のビジネスパーソンとして自分のキャリアについて伝えているが、一人ひとり異なる様々なキャリアを伝えたいので、ビジネス社会でのびのびと活躍しているゲスト3名をお招きしている。ゲスト自身のキャリアトークにより、キャリアとは与えられる正解ではなく、自分自身が創るものという刺激時間になっている。

上記を実現させる工夫として：

毎回、授業のスタート時に東京経済大学の「考え抜く実学。」を確認することで、「なぜ？」の姿勢で授業に参画できるようにしている。

## 9. 具体的な成果 \*

取り組みを通じて得られた具体的な成果をご入力ください。

自分で考えることの重要性に気づき、他者と異なる個性を大切に自身のキャリアと向き合っていることが伝わってくるのが、学生たちの学習成果レポートに綴られている。これらが授業の成果だと考えている。

<引用1>

キャリアを誰かに決めてもらうものとして考えるのではなく、自分で選び、行動していきたいと考えた。失敗や不安があっても、それを避けるのではなく、自分の経験として受け止めて挑戦を続けたい。また、人との関わりの中では、無意識の思い込みに気をつけて、一人一人を個人として尊重する姿勢を大切にしたいと感じた。これから自分が社会に出ていく中で、自分らしい働き方を見つけながら、前向きにキャリアについて考えていきたいと思った。

<引用2>

私は最初、この授業を通して「女性のキャリアの変遷や女性が男性と変わらず社会で活躍する為にはどのような改革や制度が必要であるかを学び、女性に対する理解力を深める」ことを軸に学ぼうと思っていた。というのも、私自身、男性は仕事、女性は家事といった価値観がまだまだ根強い社会で過ごしてきたので、そういった考えや価値観を払拭する為に履修しようと思っていたからである。しかし、授業が終わった今だからこそ、女性の活躍だけでなく、夫婦の在り方や外見だけでなく内面も考慮した「性」の重要性、そして全ての人々が自分らしさを十分に発揮できる「生活」を送るためにはどのような考え、制度が必要なのかについてご近所対話や授業を通して自分なりに考え、ジェンダーとキャリアについて広義な意味で「教養」を身に着ける事が大事なのだなと気づかされた。(中略)最後に、ご近所対話を通して自分と先生といった2軸だけではなく他の学生の意見も聞いたことは非常に良かったなと感じる。理由として、授業テーマに対して2つの視点ではなく複数の視点が設けられることで、自分の考えの変化や自分の枠を超えた発想に出会える機会があり、授業をより一層面白いものに行っているなと思ったからである。ぜひ来年度もこのやり方を継続してほしいと感じた。

<引用3>

講義を受ける前の私は、キャリアとは誰かがすでに歩んできた道をなぞることが重要であり、その枠から外れないことが安定や成功に繋がるのだと考えていた。そのため、周囲と同じ選択ができていない自分に対して、不安や焦りを感じることも多かった。しかし、この講義を受けたことで、そのような考え方が自分の可能性や選択肢を狭め、今後のライフコースを限定していたのだと実感した。

<引用4>

以前の私はとりあえず行動して失敗してはそのたびに傷つき、挫折していました。本当にもったいない人だと思います。行動するまではできていたのに、上手くいかないことに目を向けがちに進むべき道を彷徨っている。その部分は今でも大きくは変わらないかもしれませんが、ただ今では、何かワクワクするような挑戦や自分がしたいことに目を少しずつ向けられるようになりました。挫折をして止まるような時もあるけどそれだけで終わらない、いや終われない。この先さらに、板谷先生のようにといたら媚びを売っているようになってしまいますが、自分の挑戦したいことに正直に行動し、輝きを増していきたいです。